

平成 30 年度  
健幸都市くさつの実現に向けた  
提案書  
～はじめよう 市民丸ごと健幸づくり～



平成 30 年 10 月 9 日  
草津市健幸都市づくり推進チーム

## 目次

1.	はじめに.....	1
2.	草津市の現状と課題.....	2
①	平均寿命と健康寿命.....	2
②	特定健診 有所見項目.....	3
③	医療費の状況.....	3
④	生活習慣の状況.....	4
⑤	観光入込客数の状況.....	9
⑥	外出に関する状況.....	9
⑦	コンパクトシティ・プラス・ネットワークのまちづくり.....	10
⑧	まとめ.....	11
3.	具体的な取組の提案.....	12
(1)	歩く.....	13
(i)	今後実施すべき取組.....	13
(ii)	引き続き検討する取組.....	14
(2)	食べる.....	16
(i)	今後実施すべき取組.....	16
(ii)	引き続き検討する取組.....	17
(3)	まちづくり.....	18
(i)	今後実施すべき取組.....	18
(ii)	引き続き検討する取組.....	19
4.	あとがき.....	21
	参考資料.....	22

## 1. はじめに（草津市健幸都市づくり推進チームと提案までの経緯）

草津市では、誰もが生きがいをもち健やかで幸せに暮らせるまちを目指して健幸都市づくりに取り組んでいる。健幸都市の実現に向けては、まず、平成 28 年 8 月 28 日に、市として健幸都市を創り上げていく意志および健幸都市として目指すべき方向性を内外に示すため、健幸都市宣言を行っている。また、平成 29 年 3 月には、各種関連計画との整合を図りながら、市の様々な関連計画を健幸の側面から捉え、「まち」「ひと」「しごと」を切り口に、都市計画や産業振興の分野等と連携した取組も含め、健幸都市の実現のために全市的に取り組む事項を定めた計画である「草津市健幸都市基本計画」を策定している。

健幸都市の実現は、市の総合政策として、まちづくりの中核に「健幸」を位置づけ、都市計画や福祉、教育、産業振興等、様々な分野において「健幸」の視点を取り入れた施策を推進しようとするものである。健康福祉分野に限らずあらゆる分野が連携して健幸都市の実現に寄与する施策を展開していくためには、全ての職員が健幸都市づくりについての理解を深めるとともに、分野や既存の考え方にとらわれない自由な発想やアイデアが必要である。

このため、平成 30 年 4 月に、将来を見据えた健幸都市づくりに関する施策の企画・立案を行うとともに、全庁的な職員の意識共有を図ることを目的として、庁内の若手職員を中心に構成された部局横断的かつ常設的なチームである「草津市健幸都市づくり推進チーム」（以下「本チーム」という。）が設置され、健幸都市の実現に向けた具体的な取組についての議論を開始した。

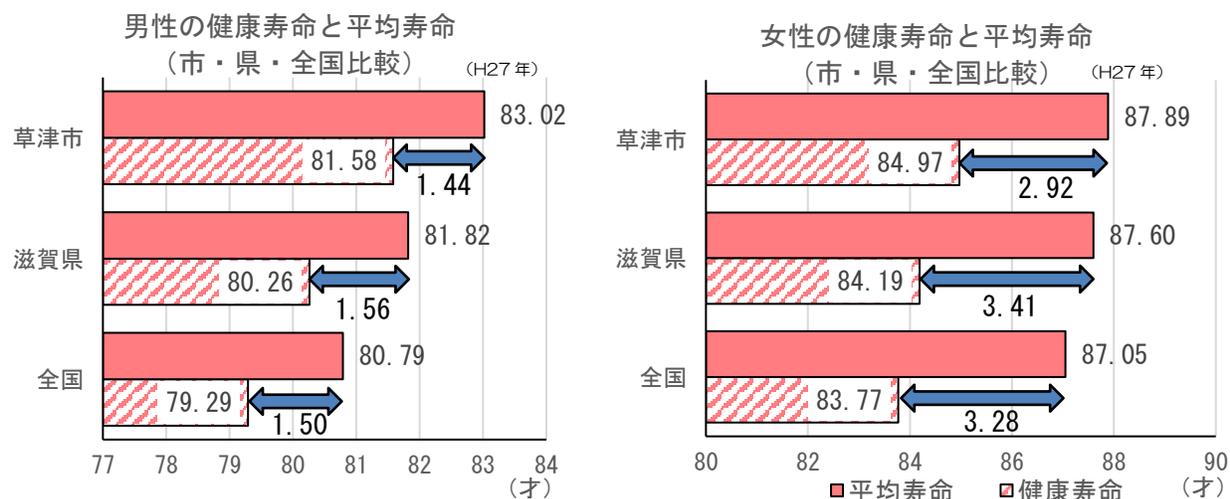
本チーム設置後、健幸都市づくりの先進地（愛知県蒲郡市）への視察・交流を含め、これまで計 6 回の会議を開催してきた。今年度は主に（1）「歩く」、（2）「食べる」、（3）「まちづくり」の 3 つのキーワードでテーマを絞り、草津市の現状と課題や草津市健幸都市基本計画の内容等を踏まえながら、来年度実施すべき取組から引き続き本チームで検討すべき事項まで、幅広く議論を行った。

これまでの議論の結果について、「平成 30 年度健幸都市づくりの推進に関する提案書～はじめよう 市民丸ごと健幸づくり～」としてまとめたので、ここに提案する。

## 2. 草津市の現状と課題

### ① 平均寿命と健康寿命

男女とも健康寿命(※)・平均寿命は国・県よりも長い状況。健康寿命と平均寿命の差についてみると、男女ともに国・県よりも短い状況となっている。



資料：健康づくり支援資料集<滋賀県>

※ 健康寿命…健康上の問題で、日常生活が制限されることなく生活できる期間のこと。以下データから算出されている。

厚生労働省 平成 27 年市町村別生命表

総務省 平成 27 年国勢調査 市町村別人口

滋賀県国民健康保険団体連合会 市町別要支援・要介護別認定者数 (平成 27 年 10 月分)

## ② 特定健診 有所見項目

本市の特定健診の結果に基づく有所見者項目については、「HbA1c」(※1)「中性脂肪」(※2)の割合が県と比較して有意に高い状況。

	【男性】 有所見項目	草津市		滋賀県
		割合(%)	標準化比	割合(%)
1	HbA1c	61.6	*109.0	55.8
2	LDL	50.5	104.0	48.7
3	腹囲	49.3	98.2	49.5
4	収縮期血圧	47.5	97.9	48.8
5	中性脂肪	33.8	*115.8	29.5
6	BMI	28.1	98.9	27.8
7	拡張期血圧	24.1	102.1	24.0
8	ALT(GTP)	21.1	100.0	20.7
9	空腹時血糖	19.1	87.3	20.9
10	尿酸	17.9	96.8	18.4
11	HDL	7.7	90.7	8.3

	【女性】 有所見項目	草津市		滋賀県
		割合(%)	標準化比	割合(%)
1	HbA1c	59.0	*105.2	55.7
2	LDL	59.0	100.6	58.9
3	収縮期血圧	43.8	100.1	43.8
4	中性脂肪	19.9	*110.6	18.0
5	BMI	17.6	93.1	18.7
6	拡張期血圧	14.9	106.7	13.9
7	腹囲	14.8	92.8	15.9
8	空腹時血糖	10.4	91.4	11.3
9	ALT(GTP)	8.5	96.6	8.8
10	尿酸	1.9	94.3	2.0
11	HDL	1.3	76.5	1.7

※1 HbA1c…赤血球中のヘモグロビンと血液中のブドウ糖が結合したもので、過去1～2か月の血糖の平均的な状態を知ることができるもの。

※2 中性脂肪…体内の中で最も多い脂肪で、糖質がエネルギーとして脂肪に変化したもの。

資料：KDB（国保データベース）システムより  
（平成27年度）

## ③ 医療費の状況

本市の国民健康保険被保険者の疾患別医療費の割合では、慢性腎不全、糖尿病、高血圧症、脂質異常症で外来医療費の約30%を占めており、生活習慣病の割合が高い状況。

### 本市の国民健康保険被保険者の疾患別医療費の割合

外来		
1	慢性腎不全(透析あり)	9.5%
2	糖尿病	8.2%
3	高血圧症	6.9%
4	脂質異常症	5.9%
5	C型肝炎	5.3%
6	関節疾患	3.6%
7	乳がん	2.2%
8	不整脈	2.1%
9	うつ病	2.1%
10	狭心症	1.8%

入院		
1	狭心症	5.6%
2	統合失調症	4.4%
3	不整脈	3.0%
4	関節疾患	3.0%
5	骨折	2.8%
6	脳梗塞	2.8%
7	慢性腎不全(透析あり)	2.8%
8	胃がん	2.2%
9	うつ病	2.2%
10	大腸がん	2.2%

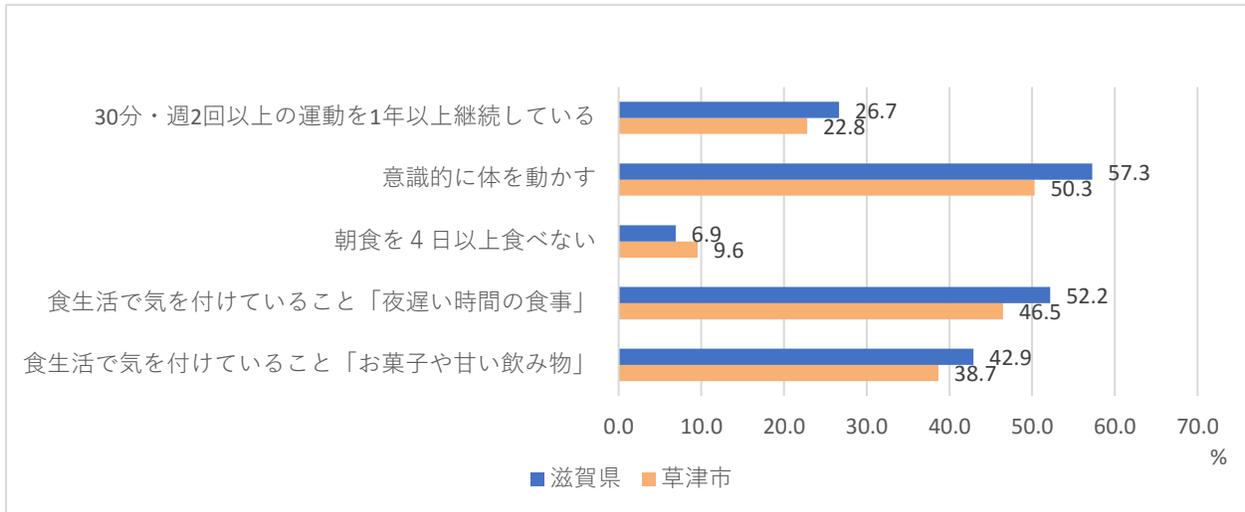
資料：滋賀県国民健康保険団体連合会提供  
（平成27年度）

#### ④ 生活習慣の状況

##### (A) 理想的な生活習慣状況の県との比較

生活習慣の状況についてみると、それぞれの項目において、理想的な生活習慣をもつ人が県と比較して少ない状況。

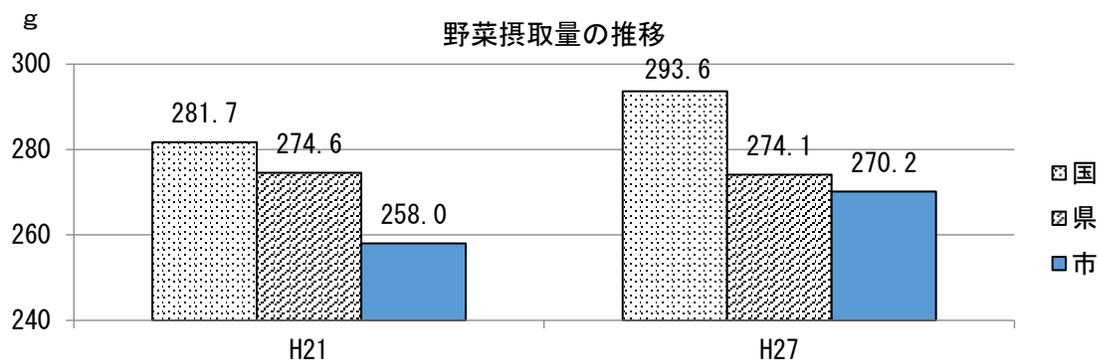
##### ■生活状況調査（平成 27 年度）

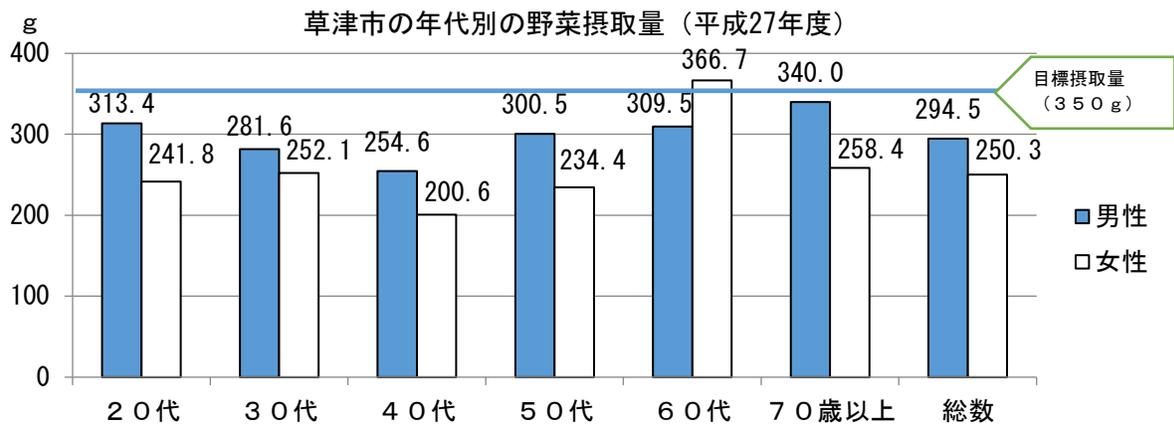


##### (B) 野菜の摂取量

資料：平成 27 年度「滋賀の健康・栄養マップ」

野菜の摂取量は、平成 21 年度と比べ増加しているが、依然として国・県と比べ少ない状況。年齢別の摂取量では、男女ともに子育て世代、働く世代である 40 歳代において最も少なく、60 歳代の女性のみ目標摂取量（350 g）を達成している状況。



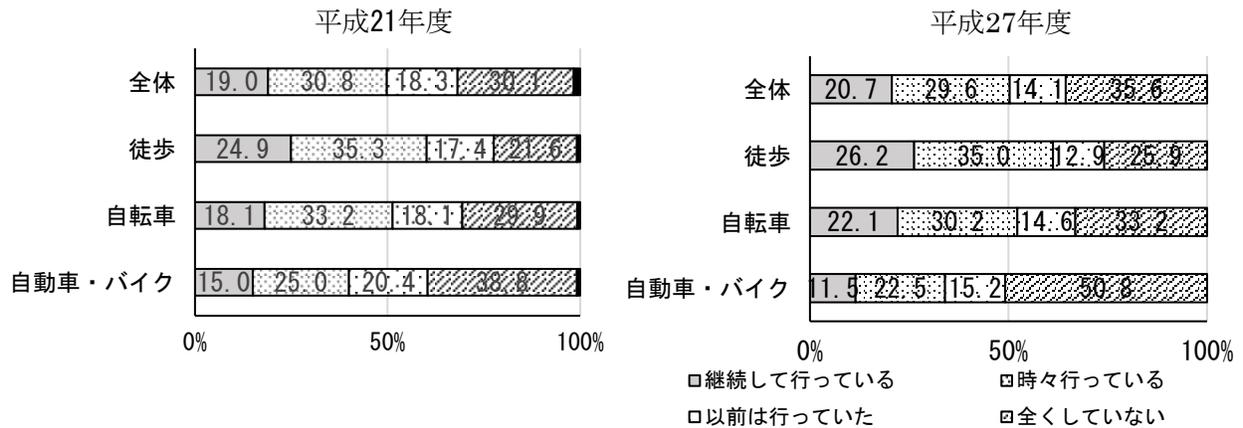


資料：平成21年度、平成27年度「滋賀の健康・栄養マップ」

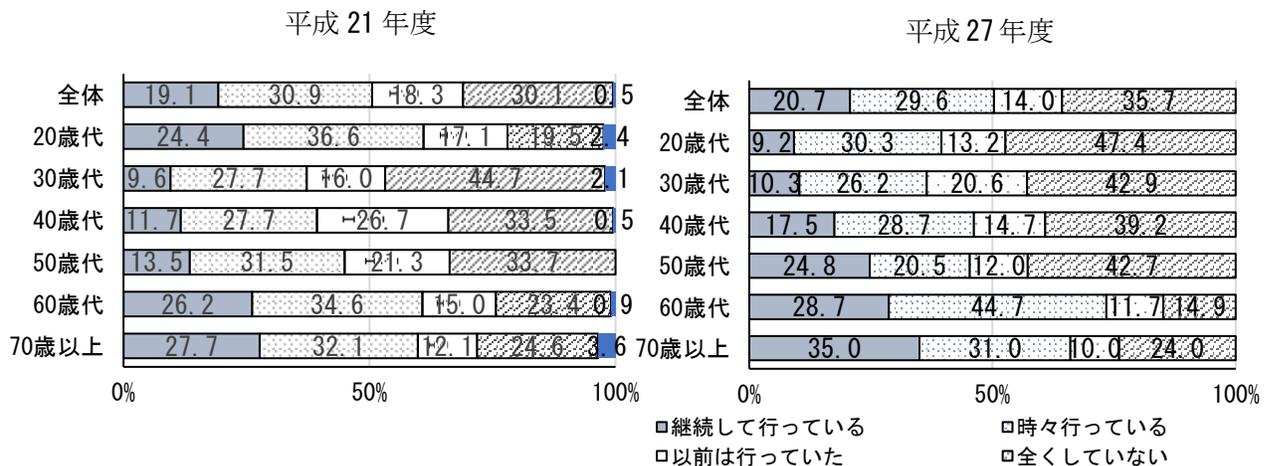
(C) 意識的な運動の状況（日常的な移動手段別）

本市においては、日常的な移動手段（歩いて10分ほどのところに出かける際によく使う交通手段）として徒歩や自転車を用いる人の方が、日常的な移動手段として自動車・バイクを用いる人に比べて、継続して運動している人の割合が高くなっている。また、年齢が高くなるほど運動している人が多く、20歳代、30歳代は継続して運動する人が他の年代に比べ少ない状況。

■意識的に運動をしているか（日常的な移動手段別、平成21年度・平成27年度比較）



■意識的に運動をしているか（年代別、平成21年度・平成27年度比較）



資料：平成21年度、平成27年度「滋賀の健康・栄養マップ」

(E) 歩数の状況（徒歩 10 分のところへ徒歩で行く人の割合）

本市においては、徒歩 10 分のところへ歩いて移動する人の割合は 20～69 歳では男女共に 3 割程度。

ライフステージ	20～69 歳		70 歳以上	
	男性	女性	男性	女性
市	38.1%	36.4%	48.0%	52.7%
県	31.1%	30.5%	36.6%	46.3%

資料：平成 27 年度「滋賀の健康・栄養マップ」

(F) 運動習慣の状況（30 分・週 2 回以上の運動を 1 年以上継続している人の割合）

本市における運動習慣者は、特に女性においてに県と比較し低い状況。

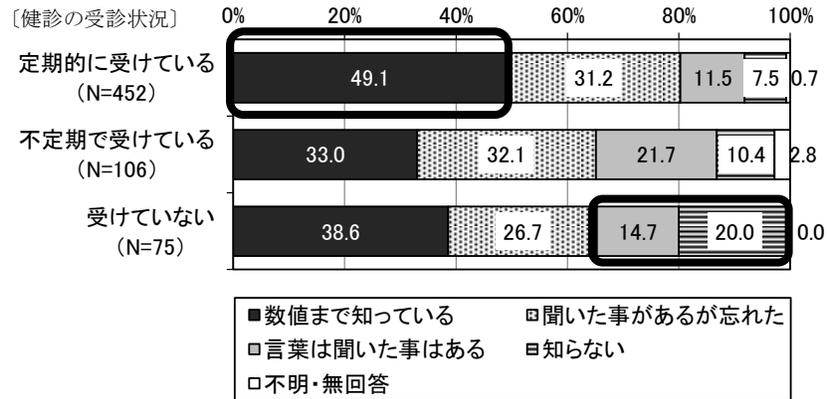
ライフステージ	20～69 歳		70 歳以上	
	男性	女性	男性	女性
市	23.0%	15.8%	48.0%	29.1%
県	23.7%	22.2%	42.9%	38.2%
国（参考）	—	—	56.1%	37.5%

資料：平成 27 年度「滋賀の健康・栄養マップ」

(G) 健康に関する情報の認知度と健診の受診状況

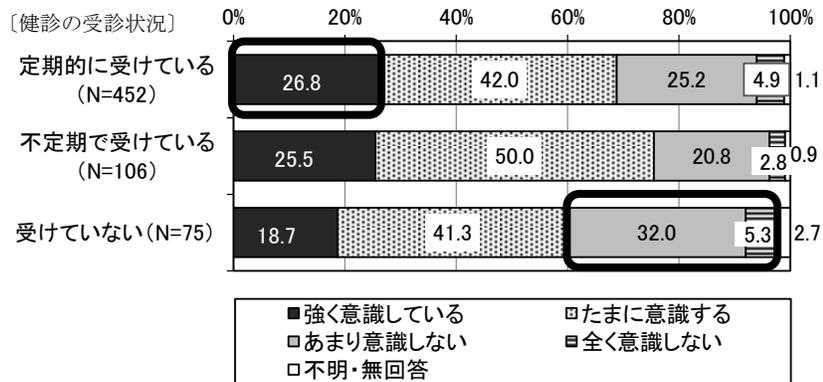
本市における健康に関する情報の認知度をみると、健診を定期的に受けている人ほど、健康に関する情報を知っており、健康に対する意識も高い。

■自分の適正体重を知っているか



資料：健康くさつ21（第2次）アンケート調査結果  
（平成26年度）

■食事のときの塩分量について、どれくらい意識しているか

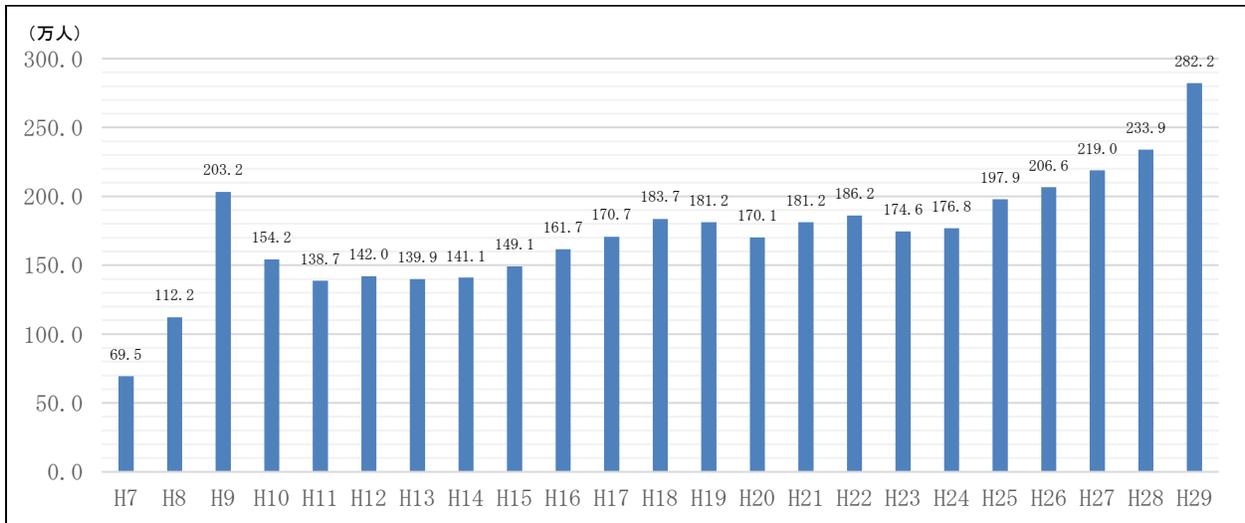


資料：健康くさつ21（第2次）アンケート調査結果  
（平成26年度）

## ⑤ 観光入込客数の状況

草津市の観光入込客数は、過去20年間を通して増減を繰り返しながら伸びており、平成26年には200万人を突破。平成29年には、その年の4月に草津川跡地公園（ai彩ひろば（区間2）、de愛ひろば（区間5））が開園したことにより、入込客数が大幅に増加している。

### ■草津市観光入込客数の推移

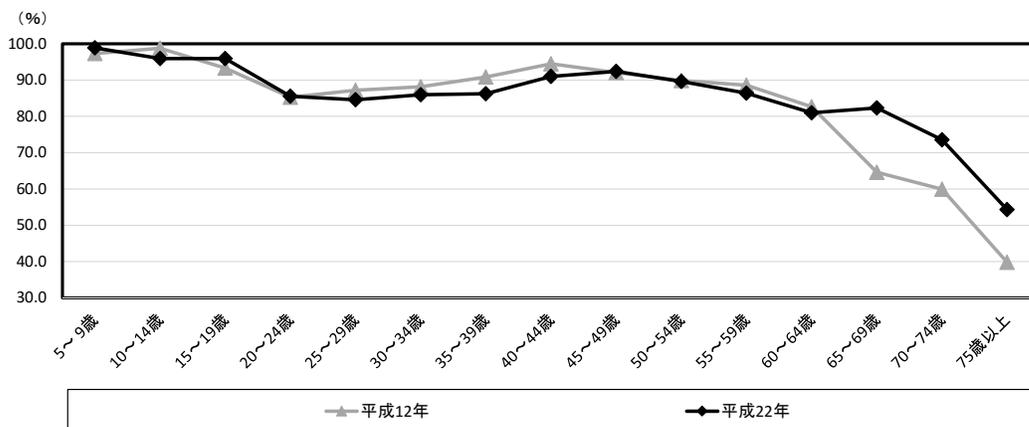


資料：滋賀県観光入込客数統計調査

## ⑥ 外出に関する状況

年齢別に外出率（※）の経年変化をみると、草津市全体では、平成12年から平成22年にかけて、65歳以上の外出率が大幅に上昇している。一方で、25～39歳ではそれぞれの区分で2ポイント以上減少しており、若い世代の外出率が減少傾向にある。

### ■年齢別外出率（草津市・経年比較）

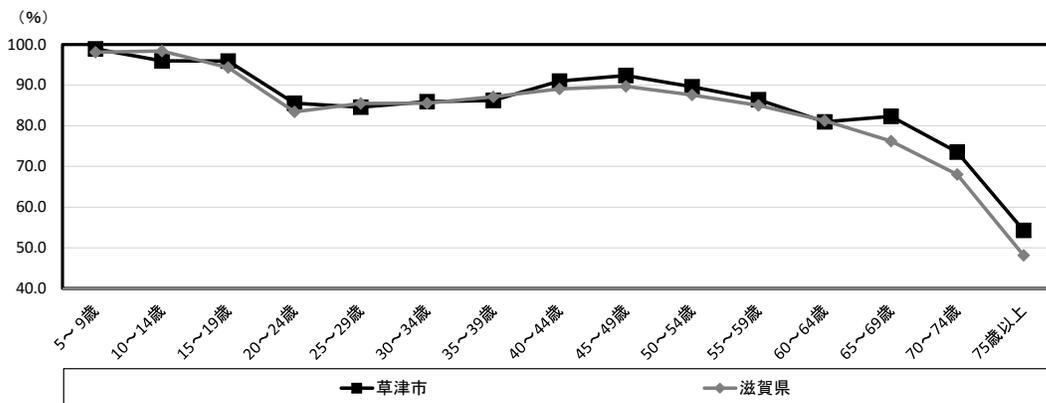


※外出率…1日に外出する人の割合

資料：近畿圏パーソントリップ調査

年齢別の外出率を草津市・滋賀県で比較すると、65歳以上では、草津市がそれぞれ5ポイントほど高い。

■年齢別外出率（平成22年 草津市・滋賀県比較）



資料：近畿圏パーソントリップ調査

### ⑦ コンパクトシティ・プラス・ネットワークのまちづくり

本市の人口は現在も増加傾向にあるが、「草津市人口ビジョン」では2040年には人口減に転じると予測され、また高齢化はすでに進んでおり、今後、日常生活が充足できる居住環境や、都市機能の維持が課題となってくる。このため、将来を見据えて、日常生活が充足できる居住環境や、都市機能を確保できるコンパクトな都市構造を維持するための対策として、「草津市立地適正化計画」に基づき、居住誘導区域および都市機能誘導区域を設定するとともに、「草津市版地域再生計画」、「草津市地域公共交通網形成計画」と一体的に進めることで、「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」(\*)のまちづくりの実現を目指している。



※コンパクトシティ・プラス・ネットワーク…人口減少・高齢化が進む中で、地域の活力維持や医療・福祉・商業等の生活機能の確保を行うとともに、みんなが安心して暮らせるよう、公共交通と連携してコンパクトなまちづくりを進めること。

## ⑧ まとめ

以上をまとめると、草津市の現状・課題としては以下のようなになる。

- 男女ともに国や県よりも平均寿命や健康寿命は長い
- しかし、特定健診における有所見者項目については、「HbA1c」「中性脂肪」の割合が高く、国民健康保険被保険者の疾患別医療費についても、生活習慣病の割合が高い
- 生活習慣の状況としては、理想的な生活習慣をもっている人が県と比べて少なく、特に野菜の摂取量は国や県と比べて少なく、目標摂取量を大きく下回っている
- また、近い距離を歩いて移動しない人が一定程度存在し、特に20代から40代までの世代では、他の世代に比べて意識的に運動している人が少なく、外出率も減少傾向にある
- さらに、健診を受けていない人は、定期的に受けている人に比べ、自分の適性体重等の健康に関する情報を知らず、また健康に対する意識が低い傾向にある
- 日常生活が充足できる居住環境や、都市機能を確保できるコンパクトな都市構造を維持するため、「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」を進める必要がある

### **3. 具体的な取組の提案**

上記の草津市の現状・課題を踏まえると、市民誰もが身近なもので気軽に取り組めるものとして、

- (1) 「歩く」という観点からの取組…歩いて移動する人を増やし、特に運動不足の傾向にある20代から40代までの世代も含めた多くの人の運動習慣や外出率を高めていく必要がある
- (2) 「食べる」という観点からの取組…野菜の摂取量の増加をはじめとした健康な食生活を進めていく必要がある
- (3) 「まちづくり」という観点からの取組…未だ一定程度存在する健康に無関心な層を含めた多くの人が健幸・健康についての意識を高め、健幸づくりに取り組むことができるまちづくりを展開していく必要がある

といった方向性が挙げられるところであり、今年度は活動初年度ということもあり、本チームでの議論が円滑に進むよう(1)歩く、(2)食べる、(3)まちづくりの3つのテーマに分けた形で、それぞれの連携も意識しながら、具体的な取組について議論を進めた。

以下、それぞれのテーマについて本チームで議論した結果を、「(i) 今後実施すべき取組」と「(ii) 引き続き検討する取組」の2つに切り分けて提案する。

## (1) 歩く

草津市では、特に若い世代で意識的に運動している人の割合が少なく、外出率も低い傾向にあり、また、徒歩 10 分のところへ歩いて移動する人は男女共に 3 割程度となっている。「歩く」ことは運動の基本であり、すぐにでも始められる健康への取組であるが、草津市健幸都市基本計画では、基本方針の「まちの健幸づくり」における基本施策として「出かけたくなるまちづくり」「(1) 歩いて暮らせるまちづくり」を掲げており、これを進めるためにも、余暇時間の少ない働き盛りの世代を含めた多くの人に、歩くことの重要性等について知ってもらい、日々の生活の中で歩く習慣を身に付けてもらうことが重要である。また、草津市健幸都市基本計画の基本理念でもある「住む人も、訪れる人も、健幸になれるまち」を目指し、年々増えていく観光客の方にも歩いて草津を楽しんでもらえるような仕掛けが必要である。

このため、現在進められている中心市街地活性化の取組やコンパクトシティ・プラス・ネットワークの実現と合わせて、子どもや高齢者を含めた多くの人が歩いて暮らせる・歩いて楽しめる仕掛けづくりを進めていくべきである。

### (i) 今後実施すべき取組

#### ① 楽しく歩ける路面標示の設置（平成 31 年度以降実施）

健康や運動に無関心な方も含めた多くの方に街中を歩いて楽しんでもらい健幸になっていただくため、そのような方が思わず歩きたくなる道、楽しく歩くことができる道の整備として、駅周辺等に主要施設等（※）の目的地までの距離や消費カロリー等を示した路面標示を設置する。

これにより、街中を楽しく歩いてもらうとともに、中心市街地の回遊性を高める。まちの賑わい創出にも寄与し、「出かけたくなるまちづくり」「歩いて暮らせるまちづくり」を目指す。

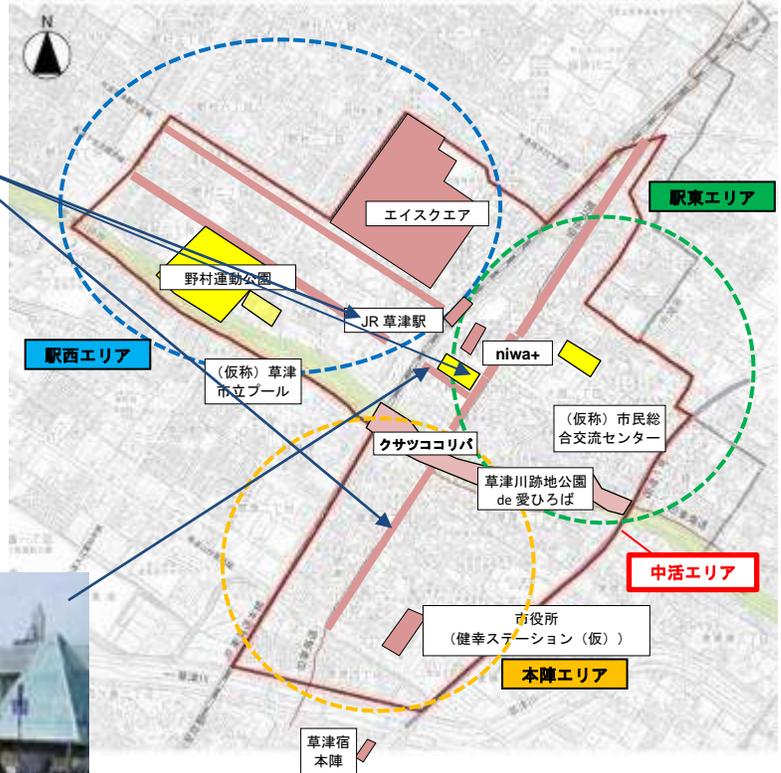
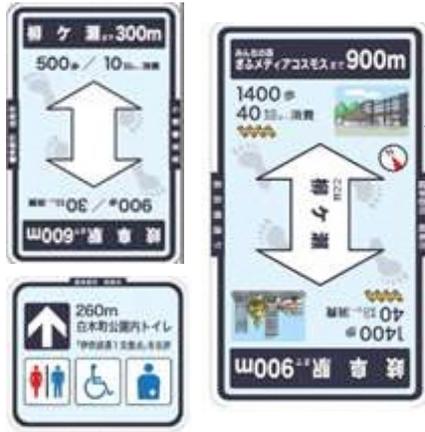
※「(3) まちづくり」において提案している「健幸ステーション（仮）」の整備とも連携を図り、「健幸ステーション（仮）」までの距離等も表示することで、「健幸ステーション（仮）」への立ち寄りも促す。

#### ② 歩きたくなるポスター掲示やデジタルサイネージの表示（平成 31 年度実施）

駅からの近距離の移動にタクシーやバスを利用している方が、思わず「歩く」ことを選択してしまうインパクトのあるポスター・横断幕の掲示やデジタルサイネージの表示等を駅前やデッキにおいて行う。

駅に訪れた方がこれを見ることで、近距離の移動に徒歩による移動を選択してもらい、歩く習慣の定着や生活習慣病の予防につなげ、草津に住む人も訪れる人も健幸になってもらう。また、健康や運動の重要性の認識を高め、「健幸都市くさつ」の啓発も併せて進める。

【①の路面標示の例（岐阜市）】



【②の横断幕の例（多摩市）】



## (ii) 引き続き検討する取組

### ① 「くさつバル」との連携

毎年実施する「くさつバル」において、歩くことの重要性の認識を促すとともに食生活や栄養バランスを見直すきっかけにしてもらうため、「くさつバル」参加店舗を栄養バランス良く歩いて巡ってもらえるようなスタンプラリーを実施する。（例えば、参加店舗を歩いて周り、肉・魚・野菜をバランスよく注文して、肉・魚・野菜それぞれのスタンプを全て制覇することを目指すスタンプラリー等。）

## ② 文化振興との連携

通勤や通学路となる駅前等の中心市街地において、一流アーティストによるコンサートイベント等を催し、歩きながらコンサート等を見て聴いてもらうことで、「歩く」という運動と音楽等の文化を同時に体験してもらう。

## ③ 草津市役所 1 t 減量プロジェクト（仮）

草津市職員の健幸づくりとして、職員同士5人程度のチームを組み、ビワテクアプリを活用し歩数集計を行い、チーム対抗で競う。「歩く」ことを通じて、市役所全体で体重1 t 減量を目指す。上位チームには、インセンティブを与えることで健康への無関心層にもアプローチする。草津市役所内での取組に効果があると判断できれば、身近な成功事例としてPRすることで市内事業所への「健康経営」にもつなげる。

## (2) 食べる

草津市では、野菜の摂取量が国・県と比較して少なく、適正量を大きく下回っている。中でも働き盛り・子育て世代である 40 代の方の野菜不足が顕著であり、また、適正体重や食事の際の塩分の量について意識していない人が一定数存在する。草津市健幸都市基本計画では、基本方針「ひとの健幸づくり」における基本施策である「個人の健康づくりの推進」「(1) 全世代に共通した健康づくり」の中で、食事の大切さや野菜の摂取の啓発に取り組むこととしており、また基本方針「しごとの健幸づくり」における基本施策である「地域産業と連携した健康産業の活性化」「(2) 特産物を活かした健康な食等の推進」の中でも、積極的な野菜摂取の啓発等の取組を行うこととしていることから、このような方たちに野菜を摂取することの大切さを認識してもらおうとともに、忙しい中でも野菜をなるべく手軽に食べてもらえるような仕組みを作っていく必要がある。

このため、野菜の摂取の重要性や草津産の野菜や特産物を使ったレシピ等を様々な媒体を使って効果的に周知を行うなど、多角的なアプローチを進めていくべきである。

### (i) 今後実施すべき取組

#### ○ 「草津・たび丸 kitchen」を活用したレシピ動画の作成（平成 31 年度実施）

クックパッド草津市公式キッチン「草津・たび丸 kitchen」の普及を図り、特に自宅での食事における野菜や適度な糖分・塩分の摂取等を促進し、市民の健康的な「食」への意識を高めるため、「草津・たび丸 kitchen」に掲載しているレシピの動画を制作し、その動画を Youtube や駅前のデジタルサイネージ等で放映することで、「草津・たび丸 kitchen」の利活用を促進する。併せて、掲載するレシピの充実を図り、「草津・たび丸 kitchen」の利用を促進し、野菜摂取の習慣化や地産地消の推進につなげる。また、事業実施の手法について、外部委託や官学連携等を検討（例えば立命館大学食マネジメント学部等との連携）。

将来的な展開としては、市内飲食店からレシピを提供してもらおうとともに、「草津・たび丸 kitchen」のレシピを市内飲食店のメニューに加えてもらうなど、市内飲食店との連携も想定し、いわゆる「外食」においても「健幸」の意識も高めていく。



外部委託等

15～30 秒程度のクッキング動画を制作



## (ii) 引き続き検討する取組

### ① ベジなかま

草津市職員の野菜摂取の習慣化を目的として、昼休みに市役所の旧パドマで野菜（サラダ）を販売してもらい、職員4，5人単位で共同購入をしてもらうことにより、周りの仲間と一緒に野菜を食べてもらう。

### ② 40代からの食の啓発冊子作成

市内の働き盛り・子育て世代の40代で野菜不足が顕著にみられることから、40代を中心に、少しでも健康的な食に対する興味を持ってもらうため、手に取ってもらいやすいような食に関する啓発冊子を作成する。

### (3) まちづくり

草津市では、生活習慣の状況について、理想的な生活習慣を送っている人が県と比較して少なく、適切な食習慣と運動習慣を意識して生活を送っている方が少ない状況にあると言える。健康について無関心な方も含めて、様々なところで健康・健幸の重要性や市の健幸都市づくりの取組について知っていただくとともに、自らの健幸づくりに取り組んでもらうきっかけに触れてもらうことが重要である。

また、「健幸」とは「生きがいをもち、健やかで幸せであること」であり、これは人と人が交流する機会が豊富にあり、社会的なつながりが充実した環境の中で達成されるものである。実際に、他者とのつながりや交流機会が多いほど健康でいられるという研究結果も存在し、草津市健幸都市基本計画でも、基本方針の「まちの健幸づくり」における基本施策として「交流機会や健康拠点の充実」「(1) 交流機会の充実」を掲げているところであり、出かける機会や交流機会を充実させるため、様々な既存の施設を活用し交流拠点を増やしていく必要がある。

このため、健康に関する情報や自らの健康状態について知りつつ、地域住民等と交流を図りながら自らの健幸づくりを進めていくことができる拠点の整備等を進めていくべきである。

#### (i) 今後実施すべき取組

##### ○ 「健幸ステーション(仮)」の整備(平成31年度実施)

各施設の場所や特性に応じて、①健康測定機能、②情報発信機能、③健幸コンシェルジュ機能、④市民活動・交流機能等を組み合わせ、市に住む人も訪れる人も健幸になれる身近な拠点を整備する。多くの人が交わり、健幸づくりのきっかけづくりや自身の取組の進捗管理・展開ができる「駅」という意味合いを込めて「健幸ステーション(仮)」という名称で位置付けて展開していく。なお、健康推進員等のボランティアを案内人として活用することで、③健幸コンシェルジュ機能や④市民活動・交流機能をより充実させることができる。

まずは、以下の場所についてそれぞれコンセプトを設定し整備を進める。

##### ① 市役所(1階サロン(喫煙場所含む)) 《健幸待合い・交流の場》

市役所1階という来庁者が多い場所を生かし、総合窓口の取組と連動し、市民が気軽に健幸を体験でき、健幸について意識してもらい、交流しながら待合いもできるブースを、現在の喫煙スペースを取り壊した後の場

所も含めた市役所サロンのスペースに設置する。ブースには様々な健康情報のパネルや健康機器・器具、健幸に関する取組のパンフレットや交流スペース等を設ける。

## ② 長寿の郷ロクハ荘・なごみの郷 《高齢者を中心とした多世代ふれあい・フレイル予防の場》

高齢者を中心に、多世代参加型の健幸に関する情報・測定・交流・ふれあい・講座の場を提供する。例えば、高齢者のフレイル（※）予防（運動教室、ジム）として健幸イベントを開催する等、利用者の豊富な経験を活かした企画事業や、年齢に関係なく一緒に楽しむことができる文化・スポーツを実施する。

※ フレイル…加齢とともに、心身の活力（例えば筋力や認知機能等）が低下し、生活機能障害、要介護状態、そして死亡などの危険性が高くなった状態。

## ③ 道の駅草津 《ビワイチサイクリストや観光来訪者が地元の食材で健幸になれる場》

市民に加え、ビワイチを行うサイクリストや烏丸半島来訪者が、立ち寄った際に健幸を実感し健幸に憩える拠点を整備する。例えば、遊休倉庫等を活用し、健康情報や健康機器・備品、交流やリラックスできるスペースを設けるとともに、「食べる」の取組と連携した野菜等の地元食材の提供等を行う。併せて、ビワイチや烏丸半島等に関する情報発信等を行う。

【「健幸ステーション（仮）」の例（柏市）】



## (ii) 引き続き検討する取組

### ① 「健幸ステーション（仮）」の拡充

今後検討すべき上記以外の「健幸ステーション（仮）」の候補としては、市役所パドマ、（仮称）市民総合交流センター、UDCBK、草津川跡地公園、野村スポーツゾーン（草津市立プール・各体育施設）、子育て施設、地域まちづくりセンター、民間施設（ex 郵便局、金融機関、大規模商業施設、宿泊施設、市内健康関連企業）等の施設が考えられることから、上記の「健幸ステーション（仮）」の利用状況や各施設の特性を踏まえながら、「健幸ステーション（仮）」を拡充させていく。

### ② 健幸に暮らせるまちづくり

中心市街地活性化における賑わいづくりや回遊性確保と連動した取組として、例えば、健幸の視点でのまちづくりの分析・評価、歩行環境の整備、自転車利用の促進等を進める。

### ③ 健幸都市が実感できるイメージ映像の企画

市民に「健幸都市くさつ」について認識してもらい、啓発を進めていくために、健幸都市をイメージしてもらおう映像の作成やたび丸健幸体操のDVD化を企画する。

## **4. あとがき**

今年度は、健幸都市の実現のための取組方策について、市民誰もが身近なもので気軽に取り組めるものとして、(1) 歩く、(2) 食べる、(3) まちづくりの3つのキーワードをテーマとして検討を行い、「はじめよう 市民丸ごと健幸づくり」をコンセプトとして提案を行った。本チームでの議論では、「3. 具体的な取組の提案」に記載した取組以外でも、ウェアブル端末を利用した健康づくりのモデル事業、健幸インフラツーリズム、健幸マップ作成や他市と共同して行うヘルスツーリズムの実施等々、多くの取組について議論がなされた。これらを含め、「引き続き検討する取組」については、引き続き本チームで議論を重ね、来年度以降の提案までに具体化に向けた検討を進めていく必要がある。また、「健幸都市くさつ」の啓発のより効果的な手法等、具体的に議論できなかった事項もまだ多くあるため、引き続き様々な視点で自由で柔軟な発想による議論を続けていく。

さらに、草津市として健幸都市づくりを進めていくにはまず草津市職員として率先して取組を行い健幸な職員となるべき、という考えから、草津市職員としてできる取組についても議論を行い、実際に本チーム内で行動に移し、現在も継続させている取組もある。今後はこれらを市職員全体に広げ、さらには市民や企業等に対しても働きかけていくことも視野に入れながら取組を進めていきたい。

本提案書を受け、健幸都市の実現に向けた新たな取組が生まれ、また、既存の取組が進展し、あらゆる分野の取組が「健幸」を軸に一体的・効果的に連携することにより、全ての人が生きがいを持ち健やかで幸せに暮らすことができる健幸都市づくりが進んでいくことを期待する。また、先進地の視察や他自治体や企業・団体との連携を進めるなど、本チームとしての活動をさらに発展させていき、より一層魅力的で多角的な提案ができるよう、今後とも尽力していきたい。

## 草津市健幸都市づくり推進チーム活動経過

	開催年月日	内容
第1回会議	平成30年4月27日	チーム発足 健幸都市づくりを進めるための事業の提案について
第2回会議	平成30年5月15日	健幸都市づくりを進めるための事業の提案について
蒲郡市視察	平成30年5月28日	愛知県蒲郡市へ視察 蒲郡市健康化政策全庁的推進プロジェクトチームとの交流
第3回会議	平成30年7月31日	健幸都市づくりを進めるための事業の提案について (部会(歩く・食べる・まちづくり)ごと)
第4回会議	平成30年8月30日	健幸都市づくりを進めるための事業の提案について (部会ごと)
第5回会議	平成30年9月7日	健幸都市づくりを進めるための事業の提案について (部会ごと)
第6回会議	平成30年10月9日	平成30年度健幸都市づくりの推進に関する提案書 についての承認・とりまとめ

## 草津市健幸都市づくり推進チーム名簿

氏名	職区分	所属	役職
◎吉田 克己	事務	議事庶務課	課長補佐
○山田 晋作	事務	都市再生課	課長補佐
○三田村 純	土木技師	プール整備事業推進室	副係長
中西 稔	事務	草津未来研究所 (UDCBK)	主査
吉川 航	事務	財政課	係長
岡田 麻衣	事務	まちづくり協働課	主査
山本 和樹	事務	商工観光労政課	主任
清水 葉子	保健師	健康増進課	係長
上野 由佳	保健師	地域保健課	主任
大隅 勝允	事務	子ども子育て推進課	主査
清水 愛紀	土木技師	上下水道施設課	主任
西村 礼加	事務	スポーツ保健課	主任

◎…リーダー ○…サブリーダー



平成30年度 健幸都市づくりの推進に関する提案書

草津市健幸都市づくり推進チーム（事務局：草津市健康福祉部健康福祉政策課）